

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜わり厚くお礼申し上げます。

2025年3月期第3四半期決算短信、プレスリリースなど、当社の近況をご報告させていただきます。

株主の皆様には今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

① 2025年3月期第3四半期 業績ご報告

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済の景気は、一部に弱い動きが残るものの、緩やかに回復しています。個人消費は物価高の影響から一部に弱い動きが見られますが、持ち直しております。政府は2024年2月の月例経済報告で、景気の基調判断を「このところ足踏みもみられるが、緩やかに回復している」へ下方修正した後、8月に「一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復している」へ上方修正しております。

このような経済状況のもとで、当社グループは、コンシューマー事業におきましては、引き続きナショナルブランド品の「ビフィーナ®」を中心に、国内販売が堅調に推移しております。さらに、腸内細菌が産生する短鎖脂肪酸の重要性に着目し、腸までダイレクトに届ける大腸送達カプセル技術を開発しております。2025年4月には、この技術を活用した新製品「タンサ脂肪酸」を発売予定となっております。また、短鎖脂肪酸の認知と理解促進を目的に「一般社団法人 短鎖脂肪酸普及協会」の一員となっており、今後も、生活者の短鎖脂肪酸への認知度・理解度・期待値を高める活動を推進し、多くの方の「おなかの健康」に寄与してまいります。

ソリューション事業におきましては、可食分野におけるシームレスカプセル受託および機能性素材の販売が引き続き順調に推移しております。2024年10月には、食品の4大テーマである健康、おいしさ、安全・品質、フードロングライフに関わる専門展示会「食品開発展2024」に出展し、機能性素材（ローズヒップエキス、カシスエキス、サラシアエキス）の紹介、多くの治験と豊富な実績を持つ当社のシームレスカプセル技術の多様性と汎用性について幅広く情報発信しました。今後も、高付加価値シームレスカプセルの開発・製造、オープンイノベーションによるパートナーとの共創を推進してまいります。また、そこで得られた知見を新たなシームレスカプセル技術開発に応用するサイクルを構築して、社会へシームレスカプセル技術を通じたソリューションの提供を続けてまいります。

売上面では、ソリューション事業が増収したものの、コンシューマー事業が減収し、全体としては微増となりました。利益面では、当社が製造販売を行っていた化粧品「販売名：仁丹パックシートH」の自主回収に伴う費用を第2四半期に計上したことにより、減益となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高9,596百万円（前年同四半期比2.5%増）、営業利益485百万円（前年同四半期比48.7%減）、経常利益525百万円（前年同四半期比46.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益350百万円（前年同四

半期比52.3%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較分析しております。

① コンシューマー事業

コンシューマー事業は、ナショナルブランドを強化し、グローバルな視点で戦略を見直すことで収益性の見直しを推進しております。当セグメントにおきましては、「ビフィーナ®」を中心に、国内販売が堅調に推移しておりますが、一部のアジア地域では売上が低迷、さらに自主回収に伴う費用を第2四半期に計上したことにより減収となりました。

当セグメントにおきましては、売上高は、3,586百万円（前年同四半期比11.9%減）、セグメント損失は、79百万円（前年同四半期は、セグメント利益297百万円）となりました。

② ソリューション事業

ソリューション事業は、当社独自のシームレスカプセル技術や機能性素材を活かすことで、顧客の課題解決を実現しております。当セグメントにおきましては、シームレスカプセル、機能性素材およびジェネリック医薬品の販売が前年同四半期と比べ増収となりました。今後もパートナー企業やアカデミアとの共同研究により、シームレスカプセルや機能性素材を用いた社会課題解決への取り組みを展開してまいります。

当セグメントにおきましては、売上高は、6,004百万円（前年同四半期比13.6%増）、セグメント利益は、559百万円（前年同四半期比12.8%減）となりました。

③ その他

当セグメントにおきましては、売上高は、5百万円（前年同四半期比19.1%減）、セグメント利益は、5百万円（前年同四半期比19.1%減）となりました。

（百万円未満切捨て）

2025年3月期第3四半期の連結業績（2024年4月1日～2024年12月31日）

連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	9,596	2.5	485	△48.7	525	△46.8	350	△52.3
2024年3月期第3四半期	9,363	12.0	946	72.2	988	68.3	735	66.5

（注）包括利益 2025年3月期第3四半期 400百万円（△49.6%） 2024年3月期第3四半期 794百万円（4.8%）

（2025年2月12日公表）

2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
2025年3月期予想	12,700	2.4	850	18.7	900	10.3	700	0.4	171.37
2024年3月期実績	12,406	9.2	716	25.8	815	30.8	697	41.7	170.68

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

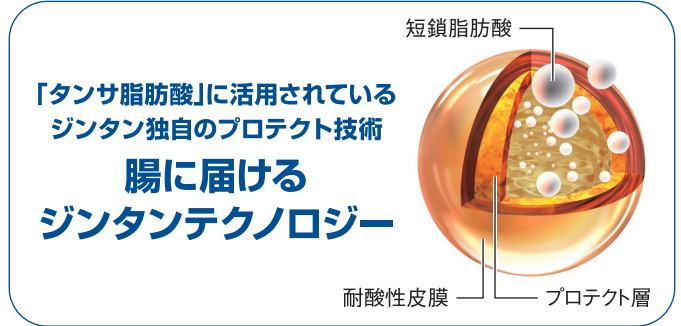
② 「一般社団法人 短鎖脂肪酸普及協会」の一員として活動開始

当社は、「短鎖脂肪酸」の認知向上と理解促進に向けて、2024年8月に発足した一般社団法人 短鎖脂肪酸普及協会の目的に賛同し、会員の一人として活動していることをご報告いたします。

「おなかと健康」に早くから着目してきた当社は、その過程で短鎖脂肪酸の重要性を知り、そのまま口から摂取してもなかなか腸の中まで届かないことから、胃や腸の入口を越えて腸の中に届けるカプセルを開発しました。2025年4月には、その技術を活用し、短鎖脂肪酸を腸までダイレクトに届ける新製品「タンサ脂肪酸」も発売予定です。

短鎖脂肪酸普及協会の認知度調査によると、短鎖脂肪酸自体の認知度は16.7%とまだまだ低い状態です。当社の新商品が広く市場に受け入れられるために、短鎖脂肪酸の認知度・理解度・期

待感向上と腸までしっかり届けることの重要性を伝えるため、短鎖脂肪酸普及協会と連携して啓発活動に力を入れ、一人でも多くの方の「おなかと健康」に寄与できるよう努めてまいります。



③ 「仁丹」シリーズ創売120周年

2024年2月より「^{きんりゅう}銀粒仁丹」は、生薬由来のキリッとした味わいと香りで、“気分をスイッチしたい”様々な日常シーンで使える口中清涼剤であることを体験いただくプロモーションを展開しております。これまでに子供から大人まで楽しめる「巨大ガチャイベント」、昭和レトロな「#タイムスリップ仁丹タクシー」、そして生薬の風味と、お酒やお食事との意外なマリアージュを楽しむ「酒祭2024」など、リブランディングを通じたイベントを実施し、「銀粒仁丹」のさらなるファン拡大をすすめてまいりました。

そして、2025年2月11日に「仁丹」シリーズは創売120周年を迎えました。節目となる2025年度は「ジンタンありやん」をテーマにプロモーションを行います。

120周年を機に公開された新動画「ガツン・スー・ファー編」やブランドサイトのアップデート、主要駅での広告や、使用機会の創出、記念グッズの作成・新パッケージへの変更を予定しており、仁丹の良さやユニーク性などを伝え、生活者との距離を縮め興味をもっていただけるよう、取り組んでまいります。

1905年に「^{あかだいらりゅう}赤大粒仁丹」として誕生し、16種類の生薬を厳選して配合した医薬部外品の「仁丹」は当社の持つ技術力や品質、真心や熱意、挑戦心の全てが詰まった、当社のものでづくりの原点です。

時代が変わっても寄り添い続ける存在であるために、「銀粒仁丹」は「ありがたい自分へのパートナー」としてブランドの在り方を再定義しました。

「あなたらしい健やかな毎日を応援する“ごきげんのおまもり”」として、若者をはじめとする多くの方々へ、これからもその価値を届けてまいります。

120th
ANNIVERSARY
仁丹 赤大粒 ▶ 銀粒



「銀粒仁丹」ブランドサイト



医薬部外品 | 口中清涼剤

販売名: 仁丹N 効能効果: 気分不快、口臭

森下仁丹のサステナビリティ



「安心・安全な製品の供給」継続のために MJ滋賀でも健康食品GMP取得

グループ会社である株式会社MJ滋賀は、100年以上にわたる錠剤医薬品の製造ノウハウを有し、医薬品製造が認められた工場として医薬品等を製造してきました。

さらに、2025年1月、公益財団法人 日本健康・栄養食品協会が認証する健康食品GMPを取得したことで、健康食品GMPの認証を必須とする諸外国からも製造を受けることが可能になり、よりグローバルに受託製造を受け付けられる環境となりました。

当社が定めた5つのマテリアリティの1つである「安心・安全な

製品の供給」にもとづき、品質保証体制の維持および強化、健康被害や製品回収などにつながる不良品発生防止など、ステークホルダーの皆様にご信頼されるモノづくりをこれからも続けてまいります。

